

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その89

文：矢部 征男

村経済を立て直した^{くんとう}訓導

奥川松峯集落の入口に「松峯部落更生記念碑」と刻まれた石碑があります。

この碑は、昭和時代の初め、奥川小学校高陽根分校^{かやね}の主任であった若き矢部四郎太先生の指導により、松峯集落が見事に経済更生を果たしたことを記念し、昭和22年(1947)に建立されたものです。文はおよそ1,300字におよび、そこには「更生は精神より、一部落は一戸より、一戸は主婦より…」とあり、15全戸の夫婦がそれぞれの役割分担をもって取り組み、負債整理を成し遂げたことが刻されています。

当時の地方紙は、「^{ひんこん}貧困の部落救済にひと肌ぬいだ訓導(小学校教諭)奥川村の一部落更生の希望に生く」の見出しで、「村は半農(小作)半労働よりなる郡内でも有名な貧弱山間部落で全作田は九町五反の少なさ。年に百俵余の米を購入、それに二万五千余円という負債があり、それこそ日常の生活にも困る有様で…」と記しています。

この悲況を嘆き、将来の理想郷を目指したのが四郎太先生でありました。昭和8年(1933)8月、奥川村が「^{ひきよう}経済更生指定村」になると、その方針に従い十数回にわたり懇談会を開いて方針を徹底、生活改善係・

^{ふさい}負債整理係・貯金組合係・納税係・開田開墾係・造林係を設置、分担し取り組んでいます。こうした指導によって大正期以来の負債や納税未納金を見事解消し、およそ2町歩の開田をも成し遂げました。さらに各家の財産造成のためとして、栗・桐・くるみの植え付けをすすめ、昭和18年(1943)、この事業は終了となりました。

四郎太先生は、奥川高陽根^{ならやま}楢山に住み、地区の教育・地域振興のため生涯を捧げられた先生であり、松峯集落にある碑はその功績を記録した1つといえるでしょう。昭和33年(1958)9月、行年72歳をもって永眠されました。

(参考文献 西会津町史 第5巻下)



▲松峯部落更生記念碑



▲左上が矢部四郎太先生



(7ページに関連記事)

今月は、15日に行われた野沢ふるさと夏まつり盆踊り＆納涼花火大会から。当日は多くの皆さんが盆踊りに参加し、大きな輪ができていました。また、今年は町制施行70周年を記念した花火大会が実施されました。大切な家族などへ向けた感謝の言葉やお祝いのメッセージとともに打ちあがる花火1発1発に歓声があがっていました。

今月の表紙